

LPガスは **災害に強い** エネルギー

日本は地震が多い国で、
災害の備えが必要なんだって。
災害時の備えって大変そう
けど何か良い方法はないかな。

プロパンガスは
使いながら備蓄できる
エネルギー！
災害時の備えとして役に立つよ。
詳しく説明するね。

マモルくん

マモルくん家族

LPガス

LPガスのお兄さん

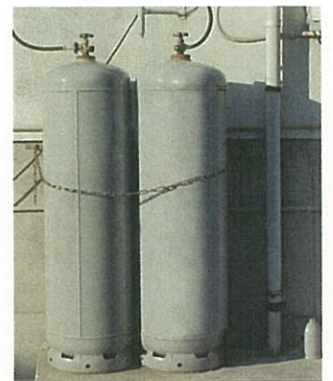
プロパンガスくん

LPガスってどんなガス？

一般家庭で使われる 50kg 容器には、
約2ヶ月分(4 人家族の場合)のLPガスが入っています。

LPガスとは「Liquefied Petroleum Gas」の略で、日本語で液化石油ガス通常プロパンガスとされています。容器(ボンベ)には、液体の状態に貯蔵され、使う時に気体(ガス)になります。

液体の状態だと、気体の1/250の体積になるため効率的に貯蔵・配送することができます。



エネルギー基本計画

この中でLPガスは“温室効果ガスの排出が比較的 low、有事にも貢献できる分散型のクリーンなガス体のエネルギー源”として明確に位置付けられました。

また、災害リスクなどへの対応強化の面や エネファームを含むLPガスコージェネレーション及びGHP等の普及拡大、LPガス自動車など運輸部門における役割などが期待されています。

※LPガスコージェネレーション(熱・電供給)システム LPガスを使って発電し、さらにその排熱をお湯や暖房などにも利用する省エネ効果の高いシステム。

※GHP(ガスヒートポンプエアコン) 高効率のガスエンジンを使い、冷暖房を行うシステム。ガスエンジンで室外機を動かすことで、電気エアコンに比べて電気消費量を大幅に削減できます。



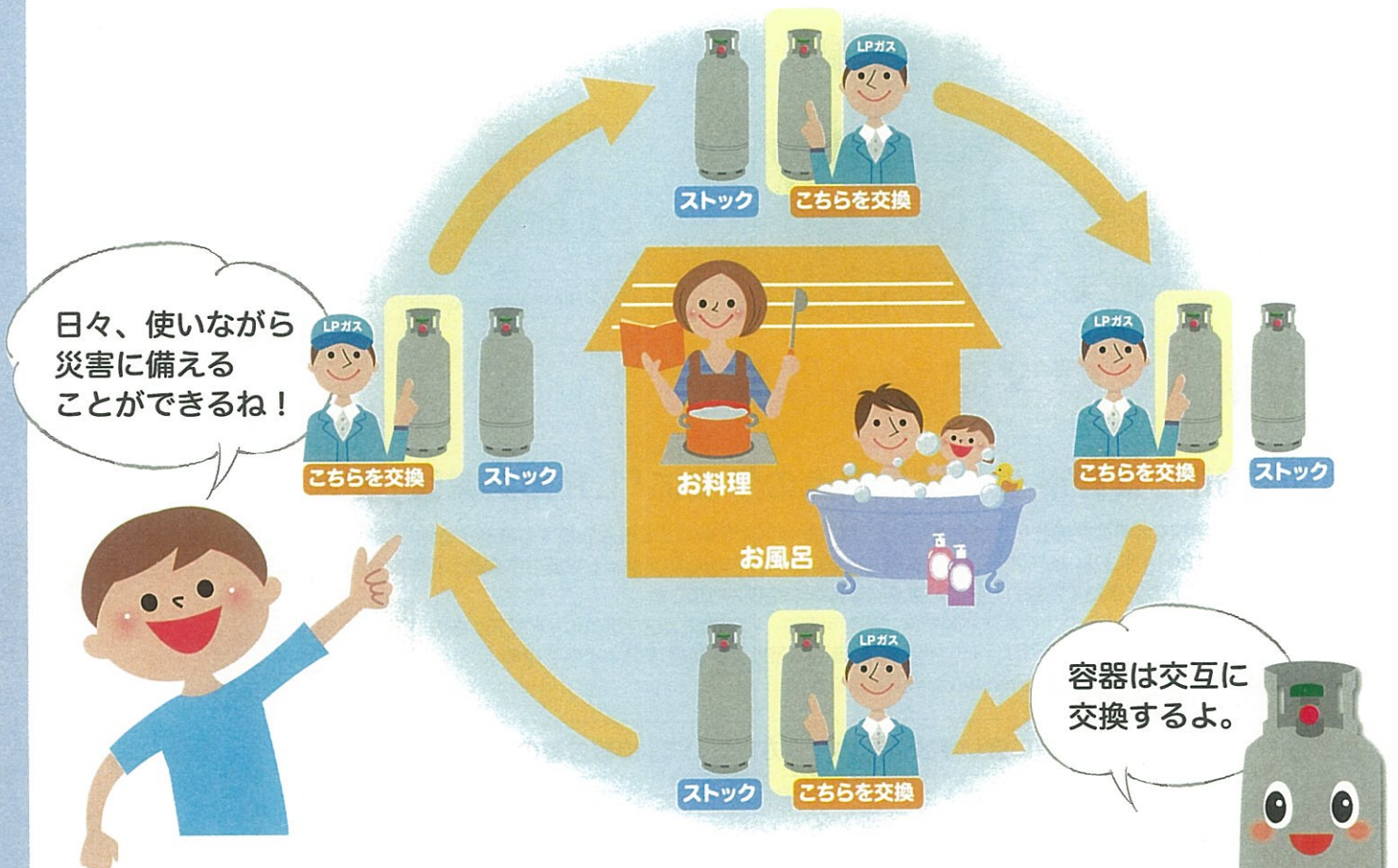
使いながら備蓄できるエネルギーにも

ローリングストックという考え方を！

ローリングストックとは災害時に備えた食品や日用品の備蓄方法のひとつです。

普段から少し多めに食材、加工品を買っておき、使ったら使った分だけ新しく買い足していくことで、常に一定量の食料を家に備蓄しておく方法を言います。

ローリングストックのポイントは、日常生活で消費しながら備蓄することです。



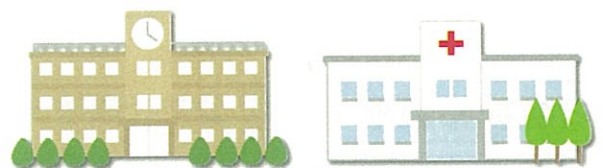
LPガスは「軒下在庫」として常時LPガスを容器にストックしています。

また、LPガスを日頃から使用していれば、法令による定期点検を行うので、メンテナンスの不行き届きで、いざという時にガスが使用できないというリスクを避けることができます。つまり常時使用していることが防災対策に繋がるということです。



点検・復旧の早いLPガスは避難所や病院などのエネルギーとして最適です！！

地震災害時に電気・都市ガス等のライフラインがストップしても、LPガスを常時使用していればガス炊飯器（100V電源を使用しないもの）、コンロ（100V電源を使用しないもの）での食事準備、ガス発電機による給電が可能です。



地震対策
助成金

避難場所等に指定されている神奈川県内の公共施設等で新たにLPガス設備を設置する場合に費用の一部を助成します。

詳しくは（公社）神奈川県LPガス協会ホームページまで <http://www.kanagawalpg.or.jp/>

LPガスはなぜ災害に強いのか？

災害に強いってどういうことだろう。



LPガスは、地震などの災害によってガスが使えなくなった状態からの

復旧の早さ

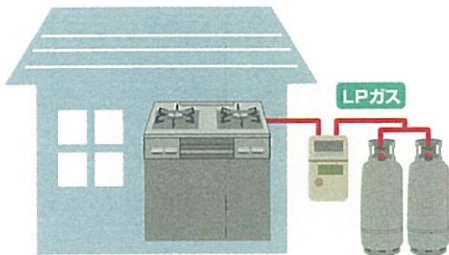
に定評があるよ。



災害時にも安全にすぐ使えるようになる事はとても重要です。

下の「東日本大震災時の復旧状況」からも分かる通り、東日本大震災の際、いち早く全面復旧したのがLPガスです。

LPガスは災害発生後の復旧が早い！

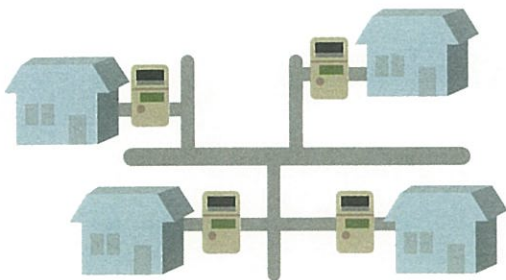


LPガスは個別供給

- 1戸1戸販売店が個別点検、配管が短く点検が容易。
- 1戸単位で安全を確認し復帰可能なため、復旧までの時間が短い。

※バルク貯槽を設置する場合があります。

1戸単位で点検
復旧が可能
復旧が早い



都市ガスは各戸の器具点検ガス栓閉止確認が必要なので時間がかかる

- 埋設配管等の安全確認に時間を要する。
 - 数百戸、数千戸単位で安全確認が必要なため、復旧に時間を要する。
- 都市ガスはその供給の性質上、災害などで地下の導管が損傷すると被害は広範囲に及び、また復旧までに長い日数を要します。

東日本大震災の際、LPガスは他のエネルギーに比べいち早い**全面復旧**ができました

過去の事例

東日本大震災時の復旧状況

3/11 東日本大震災

4/21

LPガス全面復旧

5/3 都市ガス全面復旧

6/18 電力全面復旧



※グラフは経済産業省資源エネルギー庁「東日本大震災に関する調査」より引用

LPガスは、地震などの災害によってガスが使えなくなった状態からの**復旧の早さ**に定評があります。平成30年6月18日に大阪府内で発生した震度6弱の地震では**LPガスは翌日19日**に、都市ガスは24日に**全面復旧**しました。

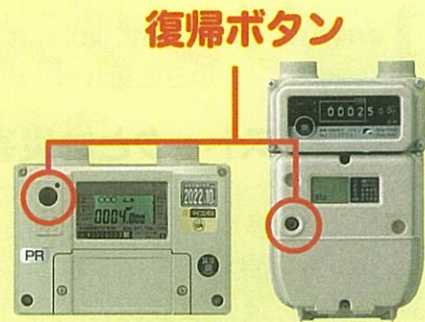
マイコンメーター 搭載で災害時も安全に

マイコンメーター 安全機器

マイコンメーターはガスをご使用時に大きな揺れ(震度5相当以上)を感知すると、自動的にガスを遮断します。

止まったガスを使えるようにするには
復帰ボタンを押し1分間待ちます

※操作しても復帰しない場合は、LPガス販売店の点検を受けてください。



地震の時 グッとときたら

大きな地震がおきたら自分の身を守りましょう



1 身の安全を確保し揺れが収まるのを待ちましょう。



2 ガスコンロなどの器具栓を閉めましょう。



3 ガス元栓、容器バルブを閉めましょう。

神奈川県 LPガス協会の取組み

横浜市・川崎市・秦野市 地域防災拠点の学校に「LPガス常設」実現

災害時に避難所となる学校などの公共施設に、災害対応バルクやLPガス発電機などを導入設置する事例が各地で本格化しています。

神奈川県LPガス協会は2014年3月、地域防災拠点に指定される横浜市内の地域防災拠点となる中学校のうち都市ガスが供給されている82中学校と1高等学校にLPガス容器を常備し、災害時に備える体制が整備されました。

川崎市では、小中学校116校にLPガス容器が常備され、秦野市では、市内全22小中学校にLPガス仕様のGHPが導入されています。また、小田原市では、18小中学校の普通教室に、伊勢原市では4中学校の普通教室にLPガス仕様のGHPエアコンと災害バルクを設置しました。

文部科学省が取りまとめた「災害に強い学校施設の在り方について」の報告書の中で
普段使用している熱源が使えなくなることを想定し、炊き出しなどに必要な熱源をLPガスやカセットコンロなどにより確保しておくことが重要。と公表しました。



日頃のポイントは LPガスを安全にお使いいただくために

換気に注意



ガス器具を使う時は換気扇を回し、時々窓を開けるなど、必ず換気を(給気と排気)を行い、新鮮な空気に入れ換えましょう。

日頃からお掃除を



ガス器具や換気扇に油汚れやホコリがたまるとCO(一酸化炭素)発生の原因に。

備えて安心



気づきにくいCOの発生を音でいち早く知らせる「CO警報器」の設置をおすすめします。

お客様相談所



公益社団法人 神奈川県LPガス協会

どんなことでもLPガスのご相談はこちらへ

<http://www.kanagawalp.g.or.jp/>

☎ 0120-244-566

受付時間(年末年始、日・祝日は除く)
【平 日】am 8:30 ~ pm 5:00 【土 日】am 10:00 ~ pm 4:00

このリーフレットはLPガス安全委員会支援事業により作成したものです。

LPガス安全委員会 <http://www.lpg.or.jp>